

誰が、どういう場面で、何を、しゃべるか？ その逐一を記した台本があるように、
どの楽器が（誰が）何小節目に（どういう場面で）どんなフレーズを（何を）演奏するか（しゃべるか）
逐一記したのがスコア（総譜）である。

劇音楽では、
A=スコアリング（編曲） B=レコーディング（録音） C=ミキシング（整音）
すべての作業が「スコア（総譜）という台本」に、忠実に進行する。

Film Musicではなく、Film Scoreと呼ばれるゆえんだ。

『序』『破』『Q』は、ともに30以上の音楽で、彩られており、
100冊ほどのスコア（総譜）の蓄積でもある。

これらFilm Scoreが、
オリジナル・サウンドトラックとなって皆様の耳に届くためには、
くわえて、D=マスタリングという作業も必要となる。

ABC作業まで、庵野秀明 総監督、および私、鷺巣詩郎にあった監督権限は、
D作業で初めて、マスタリング・エンジニアに委譲される。

半年前、TV版サントラのハイレゾ化にあたり、
'スペックの進化を凌駕する「名人の耳と腕」'という一文に書いたとおり、
この、きわめて重要な役割を、見事に果たし、
素晴らしい付加価値さえも与えてくれたのが、
ハリウッドの女王こと、マスタリング・エンジニアのパトリシア・サリヴァンである。

『序』『破』『Q』サントラがCD化された際、すでに一度マスタリングしたにもかかわらず、
再度、彼女は、
さらなる時間を、今回の「リ」マスタリング作業に費やした。

名人の耳と腕により、
「スコア（総譜）という台本」がハードカバー化されるがごとく、
永く残る、上質な記録（スコア）に生まれ変わった瞬間だ。

2014年5月 鷺巣詩郎